

JOMF 派遣医師便り (2015. 3)

◆シンガポール◆

シンガポールの人口増加と高齢化

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

2014 年、新たにシンガポール国籍を取得した外国人は、20,348 人、永住権取得者は 29,854 人であったとのことである。また、シンガポール国民としての出生数は 33,000 人でこれは前年より 2,000 人多くなった。出生率は 1.25 人となり、これも前年の 1.19 人より増加した。昨年末のシンガポール国内居住者総数は 547 万人と推計され、前年比で約 7 万人の増加である。

シンガポール人の 0 歳の平均余命は今や男性 80.2 歳、女性 84.6 歳である。男性は日本よりも長い。65 歳以上人口は約 11%とまだ多くはないが、わずか 4 年前の 2011 年には 9.3%であったことを考えると急速に高齢化が進みつつあるといえる。GDP に占める医療費の割合は 4%と低いのであるが、これもこれから増大していくと考えられている。

2030 年には居住者総数 650-690 万、市民権、永住権保持者合わせて 420-440 万となることが予想されている。

今後の高齢化社会の到来に向けてシンガポールはどのような対策をしていくか、興味があるところである。

高齢化社会でもっとも問題となるのは、医療費の増大であろう。その解決策としては<生涯現役>というのが、本当は最も良いのであろうが、なかなか実現は難しい。しかしながら、その基礎として、健康寿命（日常生活に制限のない期間）を長くすることは有効な策であろうと思われる。

2004 年シンガポール人男性の健康寿命は 70.4 歳、女性では 73.7 歳であった。それが 2010 年では男性 73.3 歳、女性では 77.7 歳となった。この間 0 歳の平均余命は男性で 77.1 歳から 79.20 歳、女性では 82.00 歳から 84.00 歳であるから、健康寿命の伸びが平均余命の伸びを上回っている。

参考までに、日本を見てみると、日本人の健康寿命は 2010 年の統計で男性 70.42 歳。女性 73.62 歳となっており、これは 2001 年に比べ、男性で 1.02 年、女性で 0.97 年延びているものの、この間の 0 歳の平均余命の伸び、男性 1.57 年、女性 1.46 年に比べて短いのである。

いち早く高齢化社会になった日本であるが、その問題を少しでも緩和するヒントがシンガポールにあるのかもしれない。